

原作 石塚真一 × 監督 立川譲 × 音楽 上原ひろみ

熱くて、激しい、青春が、スクリーンで鳴り響く!

INTRODUCTION

2013年に石塚真一が「ビッグコミック」(小学館)で連載を開始した漫画「BLUE GIANT」(シリーズ累計:900万部超)。その圧倒的表現力は多くの読者を魅了し、“漫画から音が聞こえてくる”とも評され、現実のジャズシーンにも影響を与えている。

その「BLUE GIANT」が、「最大の音量、最高の音質で、本物のジャズを届けたい」という想いから、映画化される。監督は、「モブサイコ100」シリーズや劇場版「名探偵コナン ゼロの執行人」(18)で注目の立川譲。脚本は、連載開始前からの担当編集者で、現在は story director として作品に名を連ねる NUMBER 8。アニメーション制作は「幼女戦記」(17)などで注目のスタジオ・NUT が手掛ける。

そして主人公・宮本大の声には、原作を読みひたむきに夢を追う大の姿

に自身もシンパシーを感じていたという山田裕貴。大が東京で出会うピアニスト・沢辺雪折に間宮祥太郎、そして大に感化されドラムを始める玉田俊二を岡山天音と、数々の話題作に出演し、目覚ましい活躍をみせる豪華俳優陣がキャラクターに命を吹き込む。また、“音”の面でも最高のスタッフが集結。音楽は、世界的ピアニストの上原ひろみが担当。

上原は、主人公たちのオリジナル楽曲の書き下ろしをはじめ、劇中曲を含めた作品全体の音楽も制作する。また、主人公たちのバンド・JASSの演奏を支えるアーティスト陣も豪華なメンバーが揃った。サクソ(宮本大)は、国内外のトップアーティストが集まるオーディションを経て選ばれた馬場智章。ピアノ(沢辺雪折)は、音楽の上原ひろみ自身が演奏し、ドラム(玉田俊二)の演奏は millennium parade 等、多数のアーティストから支持を集める石若駿が担当。最高のジャストリオの演奏が作品を彩る。

STORY オレは世界一のジャズプレーヤーになる。

ジャズに魅了され、テナーサクソを始めた仙台の高校生・宮本大。雨の日も風の日も、毎日たったひとりて何年も、河原でテナーサクソを吹き続けてきた。

卒業を機にジャズのため、上京。高校の同級生・玉田俊二のアパートに転がり込んだ大は、ある日訪れたライブハウスで同世代の凄腕ピアニスト・沢辺雪折と出会う。

「組もう。」大は雪折をバンドに誘う。はじめは本気で取り合わない雪折だったが、聴く者を圧倒する大のサクソに胸を打たれ、二人はバンド

を組むことに。そこへ大の熱さに感化されドラムを始めた玉田が加わり、三人は“JASS”を結成する。

楽譜も読まず、ジャズの知識もなかったが、ひたすらに、全力で吹いてきた大。幼い頃からジャズに全てを捧げてきた雪折。初心者玉田。

トリオの目標は、日本最高のジャズクラブ「So Blue」に出演し、日本のジャズシーンを変えること。

無謀と思われる目標に、必死に挑みながら成長していく“JASS”は、次第に注目を集めるようになる。「So Blue」でのライブ出演にも可能性が見え始め、目まぐるしい躍進がそのまま続いていくかに思えたが、ある思いもよらない出来事が起こり……。

情熱の限りを音楽に注いだ青春。その果てに見える景色とは――。



劇場公開2日後の
撮影・録音は収録です

劇場公開の情報は
www.bigcomic.com
0120-550098

